

総合福祉センター事業評価表 障害者福祉センター事業分

項目	区分 (仕様 1、自	具体的内容	目標・ねらい			年度評価		令和5年度の実施状況		令和6年度の実施状況		前年比		取組み、成果、利用者の満足度・評価、課題分析、自己評価
						R5年度	R6年度							
								実施回数 (回)	参加延べ人数 (人)	実施回数 (回)	参加延べ人数 (人)	実施回数 (回)	参加延べ人数 (人)	
社会生活 適応訓練	1	がんばろう会 ◇主に知的障害者対象 ・日常生活訓練 ・家事訓練 ・外出訓練	48	毎週月曜	・自立して生活ができるよう、自主性を尊重。 ・利用者同士の話し合いにより活動内容を決めて実施。 ・レクリエーションを交えながら活動することで、仲間づくりや社会ルールを身に付ける。 ・買物に出掛けたり、簡単に出来るおやつや昼食作りをする事で、生活する力を身につける。 ・屋外活動を体験をする事で、社会ルールを学ぶ。	13	13	46	314	42	295	△ 4	△ 19	①実施回数はほとんど変わらないが、登録メンバーが途中で1名減ったことで延べ人数が減少した。(一般就労へ) ②毎年行っている老人センターとの合同発表会ではハンドベルに加え、リズム体操で習得したダンスを披露した。観客にはとても好評で本人たちの意欲につながった。(9/9) ③今回の社会見学は、どんぶり会館で陶芸体験を行った。普段何気なく使用しているマグカップなどを自分の個性で作り上げ、陶器を身近に感じることができた。昼食は各自で注文・支払いをすることで社会適応訓練に繋がった。(11/18)その他にも「アール・ブリュット作品展」の見学など外出行事に積極的に取り組んだ。 ④共同作品作りは仲間と協力しながら一つの作品を作り上げていく楽しさを知る事が出来た。 ⑤令和6年度も出来るだけ家事訓練として調理実習の回数を増やした。自ら道具を準備し仲間と一緒に調理して食べる楽しみを味わうことができた。(3回)
	1	かがやき ◇主に視覚障害者対象 ・日常生活訓練 ・家事訓練 ・外出訓練	24	第2・4水曜	・仲間と一緒に出来る事の楽しさを知る。	13	13	24	124	25	134	1	10	①年間を通して月2回の開催が可能であったが、利用者全体を含め高齢化しており、介護者や自身の体調不良で休まれることも多かった。 ②日中の活動では、歩行訓練を兼ねた公園散策やカラオケボックスに2回出掛けるなどした。 ③外出は、利用者が積極的に場所を選び、虎渓公園の花見やローズガーデンでのバラ見学、ラスパ御嵩での買い物などを楽しんだ。 ④令和6年度からボランティアの受け入れを開始したことで、活動の幅が広がり外出行事や調理実習などを実施する事が出来た。 ・外出行事(6回) ・調理実習(2回)
	1	ふれあい ◇主に重度心身障害者対象 ・日常生活訓練 ・家事訓練 ・外出訓練 ・音楽療法	48	第1～4木曜 午前	・意欲と能力に応じて生活を送れるよう支援する。 ・自立支援や仲間作りをする。	13	13	47	241	46	272	△ 1	31	①活動内容は、スポーツレクリエーション・作品作り・ゲーム等を主に実施した。 ②外出では、利用者からの意見で「買い物に行きたい」と要望があったので『イース春日井』に出掛けた。ボランティアの協力もあり、利用者も目的の買い物をする事ができ楽しむことも出来た。(6/29) ③交流事業では児童センターや保育園児と季節行事を楽しんだ。今回は保育園へ出かけて給食を提供してもらい、ゲームを楽しんだ。 ④共同作品作りは仲間と協力し、各自が可能な範囲で取り組むことができた。
	小計			120					117回	679人	113回	701人	-4回	22人

項目	区分 (仕様1、自	具体的内容	目標・ねらい		年度評価		令和5年度の実施状況		令和6年度の実施状況		前年比		取組み、成果、利用者の満足度・評価、課題分析、自己評価	
					R5年度	R6年度								
					実施回数 (回)	参加延べ人数 (人)	実施回数 (回)	参加延べ人数 (人)	実施回数 (回)	参加延べ人数 (人)				
創作活動	1	俳句教室 ・講師の指導により実施	24	第1・3火曜 午前	・自分の気持ちを俳句で表現することにより自分を見つめ直す事を目的とする。	13	12	23	108	23	81	0	△ 27	①各々が考えた俳句を講師と一緒に添削・推敲している。新しい講師になったが講師の指導が分かりやすく好評である。 ②作品応募では、伊藤園が主催する作品コンクールで、1名の方が佳作、もう1名が佳作特別賞に選ばれ、副賞で自身の俳句が載ったお茶がケースもらえた。美濃加茂市文芸祭で、1名の方が奨励賞に選ばれた。 ③ボランティア受入れを再開したので、教室の進行もスムーズになった。
	1	絵手紙 ・講師の指導により実施	12	第4火曜 午後	・自分の作品を作るとともに、他の参加者の作品と比較し交流を深める。	13	12	12	57	12	49	0	△ 8	①毎回、色々な題材を準備して皆さん思い思いに描かれている。絵に添える「言葉」からも個性が表れている。 ②令和6年度は当センター主催の絵手紙コンテストで教室参加者が数々の賞を受賞されている。
	1	切り絵	24	第1・3水曜 午前	・細かい作業をする事で指先のリハビリにつなげる。 ・完成した時の喜びを期待する。	13	12	23	142	23	94	0	△ 48	①講師がいない為、参加者同士で切り方や色の配色等を相談して活動され、交流の場にもなっている。 ②今回は作品応募はしていないが、過去に受賞された方もみえるので、次の作品展に向けて作成する意欲も十分にある。
	1	サロン	12	第2火曜 午後	・簡単な おやつ作りや、軽スポーツ・買物等誰でも参加でき、仲間と一緒に楽しむ。	12	11	12	75	11	59	△ 1	△ 16	①11月から1名が一般就職で辞めたため、延べ人数が減少している。 ②調理実習を2回ほど実施、自分達で調理する献立を決めた。ピアゴへ買い物に出掛けたり、喫茶店に出掛けたりして仲間との時間を楽しんだ。
	1	己書 ・講師の指導により実施	12	第3火曜 午後	・講師の指導のもと、自由に筆を走らせ独創性を活かし、自分だけの書・読める絵を制作する。	12	13	11	57	12	68	1	11	①令和6年度より月1回の教室となり、人気のある教室の1つとなった。他の教室の人数が減少している中、登録者は増加傾向である。 ②令和5年度から講師が代わった。筆ペンを使用して文字を書き、自分らしい作品を作る事が人気の教室である。
	1	ペン習字 ・講師の指導により実施	24	第1木曜 午後	・講師の指導のもと、文字の成り立ちを正しく学び、綺麗な文字が書けるようにする。	12	13	20	32	21	47	1	15	①登録人数が2名増えて延べ人数の増加につながった。 ②全員揃って参加する事が難しかったが、講師と相談しながら実用筆文字の練習をしたり、作品の用紙を変更するなど趣向を変えたりして楽しんでもらっている。 ③1/17～1/24のサンホーム滝呂の書初め展に出品し、利用者の作品を多くの方に見て頂いた。

項目	区分 (仕様1、自	具体的内容	目標・ねらい			年度評価		令和5年度の実施状況		令和6年度の実施状況		前年比		取組み、成果、利用者の満足度・評価、課題分析、自己評価
						R5年度	R6年度							
								実施回数 (回)	参加延べ人数 (人)	実施回数 (回)	参加延べ人数 (人)	実施回数 (回)	参加延べ人数 (人)	
	1	自主活動日 ・自由来館者含む	24	第1・3金曜 午後	・誰でも自由に来館し、他の利用者と交流をはかりながら、 各自の活動に取り組む。	13	13	27	73	42	119	15	46	①年度の途中で1名の方が活動を辞めたが、実施回数が増えた為、延べ人数が増加した。(一般就労へ) ②個人で制作テーマを決め、自主的に取り組まれていた。各作品展に出展する作品の制作時間にもあてている。 ③センターでは集中して作品作りに取り組めると参加者から好評であった。また、各々の作品に取り組む意欲が向上した。
	小計		132					128回	544人	144回	517人	16回	-27人	
スポーツ・レクリエーション	1	がんばろう会 ◇主に知的障害者対象 ・スポーツ活動	12	毎週月曜日 (第2月曜 午後を除く)	・健康の維持増進と身体機能の向上、社会性や協調性を養う。	13	13	15	59	14	56	△ 1	△ 3	①風船バレーやポッチャなど楽しみながら仲間との交流を実施した。 ②公園の散歩では、心身機能の向上や心のリフレッシュにも繋がった。また、地域の子供たちや犬の散歩をしていた方と交流する事もできた。また、屋外の活動では、社会性・協調性も身についた。
	1	がんばろう会 ◇主に知的障害者対象 ・リズム体操 ・講師の指導により実施	12	第2月曜 午後	・身体を使ってエネルギーを発散する。 ・仲間と同じ目的に向かって行動する。 ・発表の機会を設けて、達成感を味わう。	12	13	12	46	13	51	1	5	①令和6年度は登録者が4名となり延べ人数が増加した。 ②講師の指導のもと、音楽に合わせて体を動かした。 ③活動内容は、前半は軽いリズム体操を行い、後半はダンスを練習し体を動かした。
	1	サウンドテーブルテニス ◇主に視覚障害者対象	12	第4水曜 午前	・視覚障害者の方にとって楽しみにしているスポーツであり、仲間と楽しむ。	13	13	12	38	12	45	0	7	①ボランティアの方と連携して実施しており、利用者の体力増進につながっている。
	1	かがやき ◇主に視覚障害者対象 ・音楽療法 ・講師の指導により実施	12	第4水曜 午後	・音楽を楽しみながら、嚥下や身体機能向上を図る。	12	12	12	45	12	37	0	△ 8	①声を出して歌ったり、楽器を使用しながら音楽に浸ることで利用者から喜びの声が上がった。 ②次年度は、各々の得意な楽器を練習し、演奏会を企画している。
	1	3B体操 ・講師の指導により実施	24	第2・4火曜 午前	・楽しく運動機能の充実を図る。	12	12	24	83	23	96	△ 1	13	①講師の指導のもと、様々な道具を使い体操を実施した。 ②一時は7名の登録者がいたが、就労へ移行・自己都合等により年度途中で辞めて年度末には登録者が4名となったが、延べ人数が若干増加した。
	1	ポッチャ	12	第1金曜 午前	・楽しみながら身体を動かし運動不足解消と身体機能維持を図る。また、パラリンピックの種目の普及・促進を図る。	11	12	10	28	10	66	0	38	①障がいの種別関係なく参加する事ができ、参加者は楽しみながら体を動かす事ができた。 ②登録人数が増えて、延べ人数が増えた。 ③ポッチャの普及促進を図るため、小学校の福祉体験時にアピールする。

項目	区分 (仕様1、自	具体的内容	目標・ねらい		年度評価		令和5年度の実施状況		令和6年度の実施状況		前年比		取組み、成果、利用者の満足度・評価、課題分析、自己評価	
					R5年度	R6年度								
							実施回数 (回)	参加延べ人数 (人)	実施回数 (回)	参加延べ人数 (人)	実施回数 (回)	参加延べ人数 (人)		
	1	風船バレー	12	第3金曜 午前	・楽しみながら身体を動かし運動不足の解消と身体機能の維持を図る。	12	12	11	30	11	30	0	0	①年度途中で2名が一般就職と自己都合にて辞めたが、その後登録者は2名増えたので、延べ人数は戻った。 ②令和7年度の教室登録者が5名となっている。教室のPRをしてさらに参加者を増やしていく。
	1	軽体操 ・機能訓練 ・講師の指導により実施	24	第1・3水曜 午後	・講師の指導のもと専門的に身体機能の維持を図る。	12	12	21	54	22	62	1	8	①登録者数3名になり、延べ人数が若干増えた。 ②日常動作に必要な筋力アップを目的とした体操は、参加者から好評だったが、人数増加には繋がっていない。今後、PR方法等、検討していく必要がある。
	1	音楽療法 ・講師の指導により実施	12	第1火曜 午後	・精神的安定と嚥下機能の向上を図る。	10	11	10	35	12	37	2	2	①人数減少に伴い月に1回になったが、実施回数・延べ人数が若干増えた。 ②コロナの頃には出来なかった向かい合わせで手遊びなどが出来るようになった。 利用者の要望に応じて音楽に合わせてハンドベルなど楽器を使用してリズムを取りながら歌ったりした。
	1	ヨガ教室（マット） ・講師の指導により実施	24	第2・4金曜 午後	・自分に合った動きと呼吸により、身体機能の維持と精神の安定を図る。	11	12	18	31	23	132	5	101	・マットヨガは、登録者が7名いる人気講座となっている。いつもは車椅子に座っていて、ヨガの時間は下に座て行える方もいる。
	小計		156					145回	449人	152回	612人	7回	163人	
更生相談	1	障がい者にかかる相談全般		随時	・身体状況、生活状況、福祉制度等の相談や介護方法の助言を行う。	14	13	随時	43	随時	28	随時	△ 15	①一人の利用者が就職したため、相談件数の減少につながった。 ②利用者以外の相談は精神障害についての相談がほぼ全体を占めている状態で、相談内容によってはパンフレットなどを送付して利用や支援に繋げるようにした。
	小計		0					-	43人	-	28人	-	-15人	
リハビリ指導	1	リハビリ指導	48	毎週金曜 午前	・身体機能の保持、機能回復を支援する。	13	13	21	66	28	128	7	62	①カイロプラクティックをされている方をお願いしている。施術として利用者にもみほぐしを実施しながら、日常生活動作の注意点等の指導をしている。 ②リハビリ講師の確保が難しい状況である。ここに計上するのは上記のみみほぐしだが、軽体操や3B・音楽療法・マットヨガ等、各教室での指導が身体機能や嚥下機能の維持を目的としていてリハビリに繋がっている。
	小計		48					21回	66人	28回	128人	7回	62人	

項目	区分 (仕様1、自)	具体的内容	目標・ねらい			年度評価		令和5年度の実施状況		令和6年度の実施状況		前年比		取組み、成果、利用者の満足度・評価、課題分析、自己評価
						R5年度	R6年度							
								実施回数 (回)	参加延べ人数 (人)	実施回数 (回)	参加延べ人数 (人)	実施回数 (回)	参加延べ人数 (人)	
送迎サービス	1	送迎サービス		随時	・通所が困難な方を対象とし、自宅までの送迎を行う。	12	13	随時	1,798	随時	2,064	随時	266	①教室の参加者で自力または家族送迎が困難な方に送迎サービスを実施した。 ②登録者数増加の為、送迎者数の増加につながった。
	小計		0					-	1798人	-	2064人	-	266人	
その他	1	障がい者レクリエーション交流会	1	7月	・誰でも参加できるレクリエーションなどで、障がい者、介護者、ボランティアの交流を図る。	13	13	1	67	1	56	0	△ 11	①令和5年度に引き続き、レクリエーション交流会を実施した。ボランティア慰問団体であるタイニービーツによる演奏は、歌声と観客を巻き込んだ演奏が好評であった。 ②参加人数に関しては、令和5年度と比較して若干減少した。
		季節行事	随時	随時	・伝統、文化の継承	12	13	4	109	5	106	1	△ 3	①多世代交流として夏祭り、運動会、花もち作り、伝承遊び、節分豆まきなど季節的行事を年間を通じて楽しむことができた。 ②令和6年度も児童センター・老人センターの利用者と実際に交流して行事を楽しんだ。
		①福祉体験 ②地域交流事業	①随時 ②1	①随時 ②10月	①福祉体験 ・福祉体験、福祉講座を行う事により、障がい者への理解を深めてもらう。 ②地域交流事業 ・障害者福祉センターの幅広い周知	15	15	7	333	10	493	3	160	①車椅子体験の回数や福祉共育サポーター養成講座への参加が増えたため、回数・延べ人数の増加に繋がった。 ②各作品展へ出展することにより認知度の上昇を狙った。
		絵手紙コンテスト	1	3月	・文化芸術活動を通して障がい者の個性と能力の発揮及び社会参加の促進を目的とするコンテスト。	15	15	1	55	1	56	0	1	①計56名の方から応募があった。3回目の開催となるため、応募数も増え、延べ人数の増加に繋がった。 ②絵手紙コンテストの審査会后、総合福祉センターの1階で応募者全員の作品展示を実施したが、来館者の多くが足を止めて見学していた。 ③次年度も、PRする事業所を検討し、作品の応募者を増やす。
総合評価書 1(運営・利用状況)-(2)(市の事業の企画・運営・実施状況(仕様書内))点数							12.67	平均値を自動計算。※①行を追加した場合は、計算式を調整すること。※②小数点第3位を四捨五入し、総合評価書へ転記。						

項目	区分 (仕様 1、自	具体的内容	目標・ねらい			年度評価		令和5年度の実施状況		令和6年度の実施状況		前年比		取組み、成果、利用者の満足度・評価、課題分析、自己評価
						R5年度	R6年度							
								実施回数 (回)	参加延べ人数 (人)	実施回数 (回)	参加延べ人数 (人)	実施回数 (回)	参加延べ人数 (人)	
その他	2	土曜教室(ふれんど)	随時	随時	・障害者の事業所を 利用している方などの余暇活動と仲間作りの機会を提供する。	12		1	14	0	0	△ 1	△ 14	①令和6年度は未実施。土曜日は休日出勤となる為、職員が平日に代休をとることが難しく、利用者の安全確保が取れない可能性がある。
		単発教室	2	随時	・通常のセンター利用者だけではなく、広く市内全体に公募し利用者拡大を図る。	13	15	1	6	2	12	1	6	①令和5年度は1回の開催であったが、令和6年度は2回開催した為、延べ人数の増加につながった。 ②5月に実施した太極拳の講座は単発に終わったが、2月に実施したeスポーツは参加者から好評で令和7年度の4月から教室とした。
		交流事業	随時	随時	・複合施設の利点を活かすとともに、社協が運営する他施設との交流を図る。	13	14	3	61	10	269	7	208	①子どもたちと交流して楽しい時間を過ごすことを目的に、池田保育園と交流事業を実施した。 ②発表会や作品展などを交流事業で行う事で多世代との交流ができた。
	その他小計(仕様+自主)							18回	645回	29回	992回	11回	347回	
総合評価書 1(運営・利用状況)-(3)(自主事業の企画・運営・実施状況)点数						14.5								

【留意事項】

1. 「区分欄」は、指定管理者の協定書・仕様書で定められた事業は「1」、協定書等がない自主事業は「2」を記入。
2. 新規事業、廃止事業については、実施事業の項目を適宜斜線とする。